

## 山梨県テニス協会創立 50 周年に寄せて



山梨県テニス協会

顧問 石井正己

県テニス協会が、設立されてもう 50 年とは早いものです。土屋会長、故崎田先生等多数の方々の努力の賜物だと思っております。

私は軟庭からの変更組ですが、スムーズに硬式に移ることが出来家族共々十分に楽しませていただきました。

当時の山梨の軟庭は強く、関東では 2 位か 3 位で国体等は全国大会への常連県で、私自身（富山、東京、熊本 4 位、山口 3 位、岡山、和歌山、埼玉等）国体選手として参加してきました。又、全国医師会大会には、武川修先生とのペアで、6 回出場して 5 回優勝しました。ゴルフも少々やりましたので、子供達、家族と一緒に遊ぶ機会がまったくなく、不満の音が耳に入り、それでは家族全員が楽しめるスポーツはテニスしかない結論づけ、これからは硬式だろうと思い、出来たばかりのシンテニスクラブに家族全員入会し、殆ど毎日夕方からナイター迄頑張って練習に励みました。但し、コーチは誰もいず巧い選手も居ず、目標もなく関東大会は負け続け、弱者の集まりの北関東大会でも勝つ事はできませんでした。そこで、少しでも山梨県のレベルアップをと考え、山梨オープン大会を作り、宮城、本井様や当時全日本クラスの中西、馬場氏にお願いし、オープン参加を依頼した所、2～3 年の間に関東近辺の県代表国体選手等多数の参加を促し良い刺激になったと思います。

その後、青森国体の際、初めて関東予選を通過した山梨を、第一シードの青森県が選んでくれた事がラッキーで 3 対 2 で青森に勝利、この結果はベテランの土屋会長、室田教授の頑張りに寄るところが大きかったです。その後、かいじ国体以外、鳥取、奈良、京都、沖縄等で 1 回戦負けが多かったのですが、昭和 61 年の「かいじ国体」では佐山、堀内、小林秀徳、広瀬均、石井で優勝が出来、女子 3 位は池本、石井千恵、小幡、少年少女も頑張ってテニスで総合優勝が出来た事など良き思い出の一つです。

又、最近では錦織圭君の影響も大きく、ジュニアのスクール生も増加した様ですが、但し、まだまだ他県に比べ普及、強化では遅れております。テニス人口の面もありますが、本気でテニスに打ち込む選手が居ないのが現状です。

協会としても尚一層の努力が必要と思われまます。